

3【授業】 特別フィールドワークの実施

授業としての「特別フィールドワーク」を EHC として企画・運営いたしました。
今年度は、以下の 2 つをおこないました。

①「空き家再生実践演習」

本授業の目的は、空き家が社会問題化している家島をフィールドに、空き家改修の実体験を通して、空き家の再生の実情を知るとともに、必要な技術や知識を実践的に学ぶことにあります。

受講生（8 名）は、3 年生以上の学生であれば、系やゼミに関係なく履修できるようにしました。

なお、本授業は、教員プロジェクト「学生島活プロジェクト」の一環として行われました。詳細は「学生島活プロジェクト」の報告をご覧ください。



②「ため池アクション」

昨年度に引き続き、授業（特別フィールドワーク「ため池アクション」）を企画・実施しました。農業・農村が抱える課題に関して、学生 3 人程のチームを組み、地域住民、専門家、ファシリテーターと共に、6 ヶ月間で 1 つのテーマに取り組みました。参加学生数は 12 名、1,2 回生の参加がみられました。実施時期は、2024.5～10、実践フィールドは加古川市、稲美町。地域課題の多くは、一朝一夕に解決できるものではなく、厳しい現実もあります。そういったなかでの、「新しいこと」や「楽しいこと」を生み出していく、そういったムードを作っていくことを大事にして実施してきました。



ため池みらい研究所

4/30(火)まで
参加学生、9名募集！
説明会実施中！

参加費無料！
農村とため池が教室だ！
ため池アクション！
プログラム期間：2024.5月-10月

ACTION
取り組むこと

ため池アクションとは？
「ため池、農業、農村」の課題に、
地域と協働で取り組む
学生活のプログラム

1 決意に誓う「ふるさと」をつくる！
「新しい環境づくり」をテーマとして、ふるさとを大切にする意識を高め、その思いから、ため池を再生させるための活動を行います。その思いから、ため池を再生させるための活動を行います。その思いから、ため池を再生させるための活動を行います。

2 「ワーキングホリデー」広げよう！
学生生活の思い出に残る「ワーキングホリデー」を、地域と協働で行います。その思いから、ため池を再生させるための活動を行います。その思いから、ため池を再生させるための活動を行います。

3 みちのちの未来プランを
提案しよう！
地域の課題を解決するための提案を行います。その思いから、ため池を再生させるための活動を行います。その思いから、ため池を再生させるための活動を行います。

プログラムの行程

「ため池アクション」の詳細

① 開校式

本プログラムに関わるメンバーの顔合わせの場。学生だけでなく、受け入れ側の地域住民や専門家、ファシリテーターや行政職員など、さまざまな立場の方と、目的を共有するとともに、メンバー間の関係性を構築しました。



② フィールドワーク

3つのテーマ、それぞれがそれぞれの地域、課題に向き合って、フィールドワークを行いました。

短い期間のなかで、各チーム共に地域の現状や課題を知ろうとする姿勢や、何か貢献したい、という思いを持ってフィールドワークに取り組む姿が印象的でした。

フィールドワークは計4回をベースとして、その他の日もメンバーが集まり、成果発表に向けた準備を進めました。



③ 成果発表会

活動を通して得られたアウトプットや成果を関係者の前で発表しました。

発表だけでなく、学生や学生を受け入れた地域住民、またそれをサポートしたファシリテーターや行政関係者、それぞれの視点からみた感想や気づきを共有しました。

本プロジェクトを通して、継続的に当該地域に関わりたいという学生や受け入れたいという地域住民もみられ、EHCとして継続的にプロジェクトをサポートしています。



各アクションの成果

ACTION 1 次代に繋げる "ふる里" をつくろう！

関係人口増加を目指し、地域の魅力を広めるべくイベントを実施

「地域を次の世代につなげるにはどうしたらよいのか。」地区散策とイベント参加を通して地域の魅力を発掘。地蔵盆やカヌー大会などに参加し、地域住民との交流を深める中で考えていきました。関係人口をキーワードに活動している志方西ウォーキングプロジェクトに参加し、まずは地域の魅力を知る人を増やすためのイベントを企画・運営することに。期間開催で自由に散策してもらいつつ、休日は地域住民と交流できる場を公民館に設けました。フォトコンテストや笹舟流し、微生物観察会、さつまいもスティック作りなど様々な企画を実施。



ACTION 2 「ワーキングホリデー制度 in 広尾東」を作ろう！

もっと関係性を深めるために、学生が地域に泊まれる仕組みを構築

地域の高齢化や人口の減少に伴い注目される「関係人口」とは何なのか。どうしたら関係人口と言えるのかを紐解き、まずは自分たちが体験しよう！とアクションを起こしました。村内で地域の人々と一緒に、学生が活動できたり、泊まれる拠点になるところが欲しい！という発想から、公民館での宿泊にチャレンジ。地域の人々によって大切に守られてきた公民館を利用するにあたって、公民館の歴史を学んだり、利用するためのルールブックを作成したり、地域にきた人が思い出を記録していく「思い出ノート」も作成しました。



ACTION 3 みらいの水路プランを提案しよう！

地元の方への調査をベースに、みらいを予測して水路プランを提案

老朽化する水路やため池の堤体、減少する農業用水の利用者（生産者）、ゆえに増えるため池の管理者負担（水入れや草刈りなど）、決壊時に問われる管理者責任、ため池の上流部の開発によって増えるため池への雨水の流入量など複雑に絡み合う問題の現状把握にまず挑戦。ため池や地域のことも知るために、ため池管理者、農業者（営農組合長、若手生産者など）、地域住民（高齢者、移住者、子育て世代）にヒアリングを重ね、ため池のみらいに関するプランを提案しました。



来年度に向けて

「ため池アクション」は、地域で活動していくにあたっての「入り口」として位置づけています。そのため、実施期間が終わった後も、継続して地域に訪れ、活動をおこなう、そういった関係性を構築できればという思いを持って企画・実施してきました。

その結果、昨年度に引き続き半数以上の学生が継続的に地域に関わり、学生団体を立ち上げた事例も見られます。

それらの活動を継続的に支援するとともに、来年度も「ため池アクション」を実施し、地域と学生の新たな出会いの場を創出していければと考えています。



地域イベント終了時の学生と地域住民の集合写真
@ 加古川市志方町